

Europe Indicators

発表日: 2020年4月22日(水)

欧州経済指標コメント: 4月英国労働統計

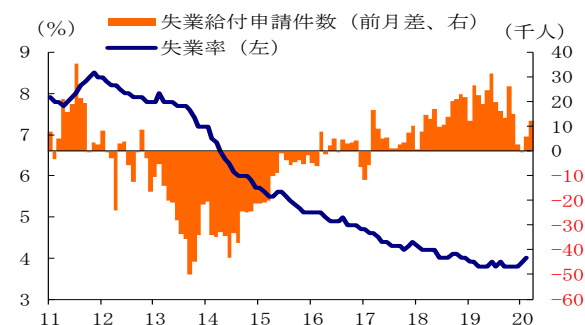
～都市封鎖の影響はこれから～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部

首席エコノミスト 田中 理 (TEL: 03-5221-4527)

- 21日に発表された労働力調査ベースの英国の失業率は、2月から遡って3ヶ月の移動平均値で4.0%と前月の3.9%から僅かに上昇した。新たに計算に加わった2月値が4.04%と同一サンプルの昨年11月値(3.91%)から上昇したが、これは主に労働参加率の上昇によるもの。同月の就業者数は前月比で+8.8万人、同一サンプルの3ヶ月前比で+17.2万人と底堅い。3月の失業保険ベースの失業率は3.5%と前月の3.4%からこちらも僅かに上昇。調査週(第2週)が都市封鎖の開始以前だったことから、4月以降の計数に影響が顕在化しよう。
- 3月16～31日の生活保護(ユニバーサル・クレジット)の申請件数は95万件以上に急増(通常の2週間は約10万件)。失業保険ベースの失業率は来月にも急上昇しようが、労働力調査ベースの失業率の明確な上昇が確認されるには数ヵ月を要する。雇用を維持した企業に給与の8割を支給する所得補填制度(ジョブ・リテンション・スキーム)の申請件数は初日だけで14万社に上った。100万人単位の解雇が免れるが、それでもピーク時の失業率は10%近くに達すると見込まれる。
- 全産業の週当たり賃金(賞与を含む)は、2月から遡って3ヶ月の移動平均で前年比+2.8%と前月の同+3.1%から鈍化。単月の振れが大きい賞与を除くベースでも同様に、前月の同+3.1%→今月:同+2.9%に鈍化。労働需給の逼迫緩和とともに年明け以降の賃金上昇率がやや鈍り始めていた。こちらも数ヵ月後に都市封鎖後の計数が発表され、一気に水準を切り下げよう。

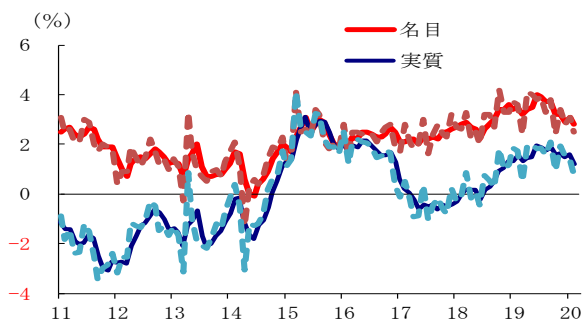
■英国: 失業率と失業給付申請件数



出所: 英国統計局

■英国の失業給付・平均賃金

■英国: 週当たり賃金・賞与(全産業、前年比)



注: 実線は3ヶ月移動平均値

出所: 英国統計局

	2019					2020							
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
失業率(失業給付、%)	3.0	3.1	3.2	3.2	3.3	3.3	3.4	3.4	3.4	3.4	3.4	3.5	
失業給付件数(前月差、千人)	19.1	24.5	31.4	19.7	16.3	13.5	26.4	15.0	2.6	-0.2	5.9	12.2	
失業率(労働力調査、%)	3.8	3.8	3.9	3.8	3.9	3.8	3.8	3.8	3.8	3.9	4.0	—	
(単月の失業率、%)	4.00	3.62	4.06	3.74	3.76	3.99	3.54	3.91	3.85	3.99	4.04	—	
就業者数(前月差、千人)	32	28	114	31	-56	-58	24	208	181	184	172	—	
週当たり賃金(産業計、前年比、%)	3.4	3.5	4.0	3.9	3.7	3.7	3.2	3.2	2.9	3.1	2.8	—	
賃金	3.4	3.6	3.9	3.9	3.8	3.6	3.5	3.4	3.2	3.1	2.9	—	
ボーナス	2.5	3.0	3.9	5.3	2.0	4.3	-3.9	-1.0	-4.6	4.1	1.3	—	

注: 労働力調査基準の失業率、就業者数、週当たり賃金は当月で終わる3ヶ月移動平均 出所: 英国統計局

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。